

第 8 号

発行 弘前大学教育学部
同窓会
〒036 弘前市大字文京町 1
TEL. 0172 (36) 2111代表
編集事務局
弘前市大字高杉字五反田191
弘前市立北辰中学校内
TEL. 0172 (95) 2019

あすなろ



最近の大学全景

組織の充実を期して



同窓会長
太田 薫

新しい春を迎えまして、会員のみなさまには益々ご清祥のことと、心からお慶び申し上げます。

本会も会員みなさまのご協力によりまして、予定された事業も円滑に推進することができ、誠に同慶のきわみでございます。

とりわけ、同窓会名簿の改訂版の発行及びその頒布については、支部役員各位のひとかたならぬご協力を賜わり、その点、改めて感謝申し上げます。

ふりかえってみますと、学部卒業生も本年度で三十五回、一万名を数えております。現在、県内の学校現場及び教育行政にたずさわっております会員は、約六千名に及んでいる状況でございます。

一方、また、ご勇退なされる会員のみられる昨今であり、今までは異なる立場で、本会の存在が社会的に評価され、真価を問われるものと考えております。

それだけに、益々、会員一同自重自愛、世の期待にそうよう努力して参りたいと存じます。また、より一層、支部の組織を強化し、活動を進められるよう、衷心よりお願い申し上げます。

(昭和六十二年 元旦)

年頭に当って



教育学部長
竹内 照 宗

新春を迎え、教育学部同窓会会員の皆様には、益々御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

学部長に就任以来まもなく五年目に入ろうとしています。この間のことを若干振り返りながら、将来への考えの一端を述べたいと思います。

皆様の母校教育学部は、昭和二十四年の誕生以来既に「あすなろ」6号、7号で振り返ってきましたように、社会の進展と共に着実な歩みを続け、はや三十八年の歳月を経て、四年課程六教員養成課程、一学年当り学生定員三百七十名の学部生と、定員五名一年の教育専攻科、ほかに研究生や聴講生を擁し、学部の教員定員は九十三名を数える現況となっております。

今や二十一世紀に向かっての国民の期待に応え、めまぐるしい社会変動や国際状況などに対応しうる、創造的で活力のある社会を築いて行くため等の、人間形成のための教育改革の推進をめぐって、

初等・中等教育から大学教育まで改善されなければならぬ幾多の問題をかかえている時期でもありません。

わが教育学部にとつては、情操豊かであらうべき、個性を生かし高い社会適応能力を育成し、いじめや校内暴力などの起らない、真に児童・生徒一人一人の個性をのばしていく、行き届いた教育のできる教員養成と併せて、現職教育もめざまさなければならぬと思います。そのため、科学的な教育技術は勿論、教育の情熱に燃えた立派な教員養成が要求されています。高い資質を具えた教員養成には、活発な研究活動と共に質的深さや広さが求められます。経済低成長下である昨今、わが学部も歩みは決して速くはありませんが、昭和五十九年度には幼児心理学の学科目の増設、六十年年度には技術科教育の増設と保健体育科教育の整備、六十一年度には生徒指導の学科目の増設、六十二年年度には音楽科教育の整備等が認められる等、数年先の大学院設置に向けて、着実な歩みを続けています。

また、新しい情報化社会時代の教育の広がりや深まりに充分対応できる教員養成と、現職教育も併せた教育実習部門と教科教育部門を中軸とした、附属教育実践研究指導センターの設置もめざして努力を重ねています。

更に、我国の国家的課題の一つである、教育・学術・文化の国際交流、協力の推進にも力を注ぎ、従来からの米国やアセアン諸国などからの学生の交流のみならず、

六十年年度は技術科の佐藤武司助教が、六十一年度は音楽科の笹森建英助教であるなど、教官の交流面も盛んにして行きたいと思っております。

今や九千五百有余名を数える会員の皆様方には、教育関係機関等でそれぞれ重要な地位と役割を果しておられ、青森県の教育が皆様方の双肩にかかっているところ大なるものがあることを御認識の上、益々健康に御留意の上、研鑽、精進によつて同窓会が一層発展して行くことを念願しています。また母校の発展のため、絶大な御支援と御協力を賜りますようお願い致しますと共に、本年の益々の御活躍と御多幸をお祈りし、挨拶と致します。

昭和61年度 総会報告

昭和61年度、弘前大学教育学部同窓会総会は、昭和61年5月5日(月)午前11時より、弘前市百石町「大和家」において開催された。竹内教育学部長、山田事務長補佐の大学側をはじめ、太田同窓会長、県下各支部約二十名の同窓会員の出席で、熱心な討議がなされ、同窓会の方向づけが示された話し合いが行なわれた。特に「同窓会名簿の改訂」は満場一致で決議された。

庶務報告
61・4・20 事務局打ち合せ。

(同窓会名簿改訂について)
61年度総会

61・5・5 支部活動費の送付

61・6・16 同窓会費納入依頼

61・10・20 事務打ち合せ(厚生係)

61・11・10 同窓会評議員会

61・11・15 ※話し合いの中で、会員死亡

のときは、同窓会より、

弔詞・弔香料(二千元)を差し上げることに決定。

61・11・20 同窓会名簿改訂の広報

61・12・8 同窓会名簿改訂の広報

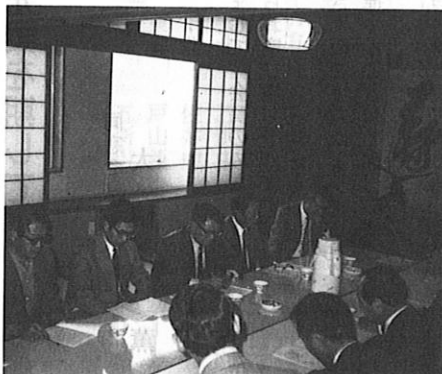
(東奥日報8日の夕刊)

61・12・18 県教委定例教育懇談会

61・12・20 今年度卒業生に対する終身

会費納入についての補足及び同窓会名簿の頒布についての依頼

62・2・10 会報「あすなろ」発行



同窓会・県教委 定例懇談会

昭和61年度 教員採用試験結果

同窓会名簿 改訂版発刊

県教育委員会と弘大教育学部同窓会との定例懇談会が、12月18日午後4時から青森グランドホテルで開催された。

県教委から本間教育長、山崎教育次長、石川学務課長、千葉総括主幹義務教育班長が出席され、同窓会側から太田会長以下8名が出席し、教員採用に関しての情報交換や今後に望まれる事などが話し合われた。

石川学務課長から、採用試験の状況について詳細な説明があり、続いて所感として示唆に富んだお話があった。

1 採用試験結果

○受験者 一、九四八名

弘前大学 四六五名(二・三・九%)

(教育学部 三三四名)

○合格者(A及びB合格者)

五八五名 合格率三〇・〇%

弘前大学 二二八名

弘大内合格率 四九・〇%

教育学部 一八六名

学部内合格率 五五・七%

教育学部内訳

小学校 一二六名 中学校 四五名

高等学校 六名 養護学校 九名

前年度より合格者が51名増となったため弘前大学も合格率が上がり、前の状況になったといえる。

2 実技の力を

小学校では、男子の専門教科のレベルダウンが目についた。特に音楽の実技が非常に悪く、男子の受験者が少ないうえにこのような状態だったので、今後一層の勉強を願っている。

3 小論文は具体的体験も

具体的体験も交えて述べてほしいものである。内容が観念的で、しかも論旨に一貫性がない。多くは教育実習の体験から述べているので、皆同じような内容の記述になっている。また誤字脱字も多く見られ、十分気をつけてほしい。

4 臨採時の勤務も

講師経験者は、年数と勤務成績も考慮しており、現役よりも合格率がよくなっている。

5 複数免許を

中学校の場合二教科ぐらいの免許を取得するとか、小中の免許を所持していると条件として望ましい。

6 その他

特技をもっている者、例えばボランティア活動、部活動なども総合判定の資料にしている。小学校では算数・理科が弱い。教材をよく勉強し、自分の適性も考えて試験に臨んでほしい。特に大学当局に要望、検討願いたい事項が多かった。

昭和六十一年度の同窓会総会において、同窓会名簿の改訂版発刊の件が提案され満場一致で可決された。

今回の改訂は六年ぶりということので、早速編集委員会が組織され、原稿づくりに着手した。前回の名簿に加え、養護教諭養成所、その他の養成機関及び旧教育学部教官も集録したので、その数一万名にも及び、膨大な作業になった。県内教職関係者は比較的その所在がわかりやすかったが、他の職業従事者や他県在住者で消息がわからなかった数もかなりこのぼった。



昭和61年度予算案

○収入の部		予算
準会費	2,450,000	
員越収	233	
雑収計	20,000	
	2,470,233	
○支出の部		予算
総評会	150,000	
議部	150,000	
支事	350,000	
支事	50,000	
支事	30,000	
支事	20,000	
支事	900,000	
支事	150,000	
支事	100,000	
支事	0	
支事	500,000	
支事	70,233	
支事	2,470,233	

昭和60年度収支決算報告書
<60.5.1~61.4.30>

○収入の部		予算	決算	備考
準会費	0	50,000	5,000円×10人	
員越収	600,000	261,000	3,000円×87人	
雑収計	1,248,546	1,248,546	利息	
	20,000	11,487		
	1,868,546	1,571,033		
○支出の部		予算	決算	備考
総評会	80,000	62,000		
議部	50,000	0		
支事	260,000	210,000	7支部	
支事	50,000	55,400	印刷	
支事	30,000	30,500		
支事	50,000	7,900		
支事	600,000	950,000	40, 15, 20, 20万	
支事	150,000	150,000	あすなろ	
支事	100,000	100,000	祝賀会	
支事	0	0		
支事	400,000	0		
支事	98,546	5,000		
支事	1,868,546	1,570,800		

繰越金 233円

教育学部の近況

工 藤 陸 男
(二回卒・学部教官)

現在(二月現在) 学部の学生数は、在籍者数一、一五一名(定員一、四八〇名)他に教養部に在籍中のも三八一名(一年入学定員三七〇名)、合計一、四三二名で教官数は九四名である。それに付属教官は九三名、事務職員は合計五〇名の大所帯である。

六一年三月の卒業生は四一六名、その内訳は、小学課程二〇〇名、中学課程一六名、養護学校教員養成課程二二名、看護課程一〇名、養護教員養成課程四四名、幼稚園課程二四名で、その他専攻科二名である。また六一年四月の入学生は三七〇名(定員どうり)である。

六一年三月退官された教官は化学の佐藤圭先生。今度六二年三月に退官されるのは音楽の葛西満郎先生、食物学の秋葉文正先生、教育社会学の花田隆先生の三方である。永い間ごくろうさまでした。

今年度の新任教官は、化学の北原晴男 美術の伊藤隆の両先生である。最後に、同窓の教官を紹介しよう。現在学部には地学の塩原鉄郎(三回) 幼児教育の山木正(四回) 障害児心理の齋藤繁(五回) 木材加工の佐藤武司(八回) 教育心理の丹藤進(八回) 被服の盛玲子(八回) 教育学の村山正明(一七回) 発

達心理の平岡恭一(二一回) 養護の西沢義子(二四回) 看護の米内山千賀子(二五回) 工藤せい子(二六回) 花田久美子(二九回) 葛西敦子(二九回) と小生の計十四名がいる。どうぞ同窓の諸兄には気軽に何でも御用命下され、またお立寄り下さるようお願い申し上げます。

むつ下北支部だより

昭和六十一年度 総会と懇親会開催

女性の参会を望む声も

六十二年一月十五日、成人の日。むつ市のホテルニューグリーン大広間で支部総会を開催した。冬季の厳しい寒さの中、遠い佐井村や脇野沢村、大間町、川内町、東通村、風間浦村、大畑町、それに地元むつ市の会員五十八名の出席で和やかな雰囲気が進められた。

須藤昭栄常任委員の司会で開会。佐々木支部長の挨拶後、高杉正三議長で議事に入り、庶務報告、会計報告、役員改選が行われた。

懇親会は泊副支部長の開会の辞、第一回生の幸林義男下北教育事務所長の挨拶と乾杯、六回生の三浦立博氏の司会で互いに自己紹介しながら懇談に入った。同窓生という年代を超えた交歓の一刻は職場では味わえないものがあり、若い女性からの、若い仲間や女性がもつと

参加するよう来年度は誘い合って来たいとの発言には大きな拍手が湧き起こった。来年度は集まり易い時期を考える必要があると思う。

わが支部は、むつ下北八市町村の約三百五十名の会員で組織され、高校6、養護学校1、中学校28、小学校64校の教職員の数に占めており、むつ下北地区の教育の原動力として種々の活動に活発な働きをしている。

新採用者が多く若さに溢れているが、五年から十年で出身地の東青、中弘南、西北に帰る人が数多く見られ、会員の異動も大きい。

しかし、下北に骨を埋めると言う会員



も多く、下北としては心強い限りである。

◎新役員紹介

- ▲支部長 佐々木陽一(佐井中) ▲副支部長 泊信巳(川内中) 鷲岳公彰(野牛小) 金沢一朗(大湊高)
- ▲評議員 工藤恭悦(関根中) 八谷孝司(脇野沢小) 小坂恒美(猿ヶ森小) 館洋(蛇浦小) 渡部信夫(大畑高) ▲常任委員 須藤昭栄(大室平中) 能渡恒(大平小) 高杉正三(近川中) 松田里司(下北教育事務所) 齋藤忠幸(大畑中) 新山剛(風間浦中)
- ▲会計監査 永谷智(むつ市教育委員会 伴良治(第二田名部小) (佐々木記)

事務局より

あすなる第八号をお届けします。今年度は同窓会誌の改訂版編集が大きな事業でした。資料収集や頒布についてご協力くださった、支部関係各位に深く感謝申し上げます。残部がございますので、入手していない方は、左記の方にお問い合わせ下さい。

- | | | |
|-----|-------|-------|
| 三八 | 八戸三中 | 佐藤 公彦 |
| 上北 | 乙供中 | 千葉 治昭 |
| 下北 | 佐井中 | 佐々木陽一 |
| 東青 | 戸山西小 | 伊藤 孝 |
| 北五 | 五所川原小 | 釜泡 裕 |
| 西 | 風合瀬小 | 七戸 信 |
| 南黒 | 六郷中 | 森 隆一 |
| 中 | 西目屋小 | 北山 昭美 |
| 事務局 | 北辰中 | 木村清之助 |